

第374空輸航空団、戦闘航空戦力75周年を祝う *374 AW celebrates 75th birthday of combat airpower*

August 18, 2023

By Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

8月16日、横田基地のメンバーが第374空輸航空団の創設記念を祝うため、下士官クラブに集った。

この記念行事には、約100人の空兵と航空自衛隊や周辺自治体の来賓が参加し、第374空輸航空団史料部のレスリー・ジョーンズ部長が、その来賓者を前に空輸航空団の歴史とその沿革について話した。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は、「75年の間に、同航空団は解散、再編、人員増強、任務の改変など、さまざまな変遷を遂げてきた」、そして「長年にわたって我々は任務に励み、同盟国である日本とのパートナーシップを築いてきた」と述べた。

第374空輸航空団は、1948年8月10日に第374兵員輸送航空団(重輸送)として創設され、8月17日にグアムのハーモン・フィールドでチャールズ・K・モア大佐の指揮のもと活動を開始し、主に太平洋地域内において兵員を輸送する任務を担った。

史料部ジョーンズ部長は、「朝鮮戦争中、同航空団は戦闘空輸、空中投下、航空医療搬送を行った。1953年の休戦時には、帰還捕虜の第一団を韓国から日本へ輸送した」と歴史を振り返った。

同航空団は、1992年に横田に移転するまでの間、長年にわたりインド太平洋地域の異なる基地でさまざまなミッションを担ってきた。そして現在は西インド太平洋における主要な空輸・支援作戦の拠点として機能している。

他にも、各部隊の隊員たちが部隊の歴史・沿革をまとめ、披露した。

そして軍の伝統に基づき、ラダン大佐と第36空輸中隊航空資源管理技術官レニー・ロドリゲス一等空兵が共にケーキ・カットを行った。この伝統は参加者の中で最も入隊して間もない空兵が、航空団の司令官もしくは最もキャリアの長い空兵と祝賀のケーキにナイフを入れ、世代間の伝統継承を示すものである。

ラダン大佐は、「今日という日は、第374空輸航空団のメンバーの75年にわたる継続的な努力と、自由で開かれたインド太平洋を維持する決意を象徴している。第374空輸航空団の長年にわたる数々の達成と功績を心から誇りに思う」とコメントした。

